

最新！宗教情報 // No. 4

◎死者59人に ニューデリー爆発、22人を拘束

【朝日新聞、10/30】ニューデリーで29日に起きた連続爆発事件は30日までに死者は59人、負傷者は210人にのぼった。PTI通信が警察当局のまとめとして伝えた。現地警察は22人を拘束し、治安当局はイスラム過激派がかかわった疑いもあるとして調べている。爆発があった3カ所だけでなく、ニューデリー旧市街にも爆弾が仕掛けられており、もっと大がかりなテロを計画していた可能性があるという。

新たに発見された爆弾は旧市街のチャンディチョークにあった。警察が処理して爆発を防いだという。3カ所の爆発は午後5時半過ぎ、数分間隔で起きた。

インド政府は「テロ攻撃」と断定したが、「犯人の背後関係を指摘する段階ではない」（パティル内相）としている。治安当局者の見方を一斉に伝えたインドのメディアは30日、パキスタンに拠点があるイスラム過激派「ラシュカレトイバ（高潔な軍隊）」の犯行の可能性を指摘した。

インドとパキスタンはこのところ急速に緊張を解き、領有権を争っているカシミール地方でも相互交流を始めるなど、関係改善がめだつ。それを嫌う過激派がテロを本格化させており、両国の関係を再び不安定にさせようとしている、との見方もある。

30日はカシミール地方で活動する「インキラブ（革命）」という過激派グループが犯行声明を出した。無名の組織で真偽は不明だが、「ラシュカレトイバ」と連携しているとの情報もある。事件があった29日、両国政府はパキスタン大地震の被災者を救援するため、カシミール地方での協力を話し合う初の公式協議をしていた。

◎イスラム教と共存呼び掛け 英皇太子、訪米で大統領に

【共同通信、10/30】30日付の英紙サンデー・テレグラフは11月1日から訪米するチャールズ英皇太子が、ブッシュ米大統領に対し、イスラム教への理解を求めることになったと報じた。ホワイトハウスの昼食会などでイスラム教への偏見を廃し共存を探る必要性を訴えるという。

皇太子は2001年の米中樞同時テロ以降、米国がイスラム教に対し極端に狭量になったと考えており、これまでも「過激な思想はイスラム教の大勢ではない」と主張してきた。

今回の訪米は、今年4月に結婚したカミラ夫人と初の夫婦での外国公式訪問。

◎＜イラク総選挙＞届け出締め切り 4派による争いへ

【毎日新聞、10/29】イラクの独立選挙委員会は28日、12月15日に実施される総選挙（連邦議会）の候補者届け出を締め切った。1月の移行国民議会選挙をボイコットしたイスラム教スンニ派も主要3派連合による候補者名簿を提出した。選挙はシーア派、スンニ派、クルド人、世俗派の各派による争いになる。

イラクからの報道によると、スンニ派は、イラク・イスラム党▽イラク国民対話▽イラク民衆会議――の主要3派が統一リストを提出した。スンニ派の宗教指導者の一部は、「占領軍」が存在する限り政治プロセスへの参加を拒絶する姿勢を崩しておらず、3派連合にとっては同派住民をどれだけ政治参加させられるかがカギになる。

移行国民議会の過半数を占めるシーア派中心の連合会派「統一イラク同盟」には、同派の反米指導者、

ムクタダ・サドル師派が正式に参加した。これにより、同盟はイラク・イスラム革命最高評議会（S C I R I）▽アッダワ党▽サドル派——と宗教色の強い3大シーア派組織が中心となる。

移行政府のチャラビ副首相率いる世俗派の「イラク国民会議」は同盟から脱退、独自の候補者名簿で選挙に挑む。

クルド人は2大勢力のクルド民主党（K D P）とクルド愛国同盟（P U K）が連合を堅持。また、暫定首相だったアラウィ氏（シーア派）は宗派・民族を横断する世俗派連合会派「イラク国民リスト」を設立した。

総選挙は連邦議会（定数275）議員を選出。全18県を、それぞれ一つの選挙区とした中選挙区（230議席）と全国区（45議席）の比例代表制で争われ、年末までに新政権が発足する。

黒人解放の神学

時代背景(1)

※ M.L. キング, Jr. (1929-1968)

- 公民権運動の指導者
- 1955年、モンゴメリーのバス・ボイコット運動を指導。
- 1959年、インドをおとずれ、ガンディーが追求した大衆的非暴力抵抗運動に影響を受ける。
- 1963年、ワシントン大行進「私には夢がある。いつかジョージアの赤い丘で奴隷の子孫と奴隷所有者の子孫が兄弟として同じテーブルにつく夢が」
 - [The Martin Luther King, Jr. Papers Project](#)
- 1964年、ノーベル平和賞受賞。
- 1968年、暗殺される。

2

時代背景(2)

※ マルコムX(1925-1965)

- キング牧師らの非暴力主義による黒人運動に反対し、暴力による権利獲得をめざした。
- 1946年、強盗罪で刑務所におくられたマルコムは、服役中、ネーション・オブ・イスラムの教えに触れる。
- 1960年代初頭、ネーション・オブ・イスラムのもっとも有名なスポークスマンとなる。
- 1964年、脱退。メッカを巡礼。
- 1965年、暗殺される。

3

黒人解放の神学の形成

※ ジェームズ・H・コーン(1938-)

- 人種隔離政策の中で成長する。黒人を差別する白人たちが同じ神を信じていることへの疑問。
- 1950~60年代の公民権運動の影響を受ける。
- 白人中心の抽象的神学を批判。

4

コーンの代表的著作

- ※ Black Theology and Black Power, 1969
 - 『黒人神学とブラック・パワー』
- ※ A Black Theology of Liberation, 1970
 - 『解放の神学——黒人神学の展開』
- ※ The Spirituals and the Blues, 1972
 - 『黒人霊歌とブルース』
- ※ God of the Oppressed, 1975
 - 『抑圧された者の神』
- ※ Martin & Malcom & America: A Dream or a Nightmare, 1991
 - 『マーティンとマルコム、そしてアメリカ—夢か悪夢か』

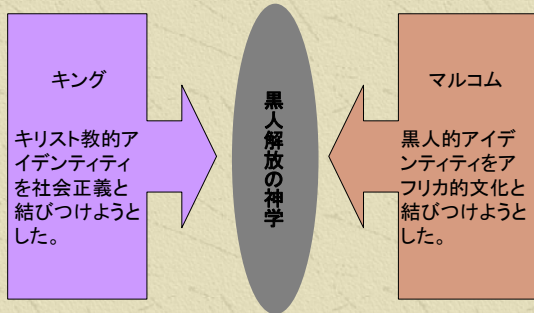
5

コーンの神学の特徴

- ※ キングのintegrationism(統合主義)とマルコムのnationalism(民族主義)を相補的にとらえようとしている。
- ※ キングは、かつて人種隔離制度を内面から支えていた個人主義的贖罪信仰を、地上のもっとも小さい者たちの連帯性の戦いへと解放した。
- ※ マルコムは黒人的アイデンティティの重要性を教えてくれた。

6

黒人解放の神学の特徴



7

『解放の神学——黒人神学の展開』から(1)

- ✳ 白人は死の現実から逃れようとする。彼ら(黒人)は、白人を見るたびに死を見ているのである。
- ✳ 本来の終末論的展望は歴史的現在に根拠を持たなければならない。現在の秩序に挑戦しないような終末論的展望では不十分である。
- ✳ われわれ自身の子供たち苦痛や苦悩を見捨てたままにしなければならないとしたら、永遠の生命でさえ何の益があるのか。

8

『解放の神学——黒人神学の展開』から(2)

- ✳ モルトマンの分析は黒人神学の関心と矛盾しない。
- ✳ 黒人の関心を天国に向けることは白人奴隷主に起因する。しかし、天国はもはや、現実の不正義を受容するためには用いられない。天国を信じるということは、地上の地獄を受け入れることを拒絶することである。

9